

日露の教師・生徒をつなぐ

日本でロシア語教育を実施している高校は30校。高校ロシア語教育をサポートしたいという思いをもった大学の先生と出会い、TJFの高校ロシア語教育事業がスタートしました。日露で互いの言語を教える教師、学ぶ生徒をつなげたいと考え、第一弾として、2015年8月、ロシアの日本語教育の拠点であるモスクワとノボシビルスクから6名の日本語教師を招聘しました。滞日中に日露合同教師研修を開催。2016年は研修に参加した日本の教師と、生徒がロシアを訪れて交流します。

外国語を学ぶことの意味と醍醐味を伝えたい

遠藤雅公
北海道札幌丘珠高等学校教諭

私は20年以上前からロシア語教育に携わっています。稚内で高校の英語教師をしながら地域の方々を対象にロシア語講座を始めたのがきっかけでした。わかりやすく、楽しく、そして文化も学べる内容をめざし、いつも手探り状態で取り組んでいました。今も心境は同じです。

本校のロシア語の授業は3年生の選択科目として週2回行われています。1年間でできることは、自己紹介や挨拶表現、名詞の格変化や動詞

の変化の一部に限られ、初級の文法を網羅することはできません。しかし、進度にこだわらず教科書から離れたことも随時取り入れています。例えば、私自身が



◎但馬一憲

ロシア語を学ぶきっかけとなった、シベリヤに抑留された父の体験談を、まず初めの授業で紹介し、片言のロシア語を駆使していたという話から、語学の大切さが伝わるからです。また学生時代に没頭した学園祭でのロシア語劇の一場面を披露したり、民話や詩、ロシア民謡やロシア語に訳された日

本の歌なども取り上げます。大学から先生を招いて講義を聴いたり、調理室でボルシチやペリメニといったロシア料理を作ったりもします。意欲の低い生徒もいるなかで、みんなが興味を失わずに授業についてこられることが必要なのです。幸い大学のロシア語学科に

進む生徒もいます。昨夏に参加したTJF主催の日露合同教師研修では、日露の先生といっしょに学習言語で自分の町を紹介する授業について考え、私の授業では

ビデオをつくることにしました。実施するには周知な準備が必要ですが、生徒は座学では味わえない達成感が得られるでしょう。今までにない教育実践につながる可能性が見えてきました。北海道はロシアから最も近い隣国です。もっとロシアやロシアの人のことを知るためにも交流は大切です。今年はロシアへ日本の高校生が派遣されて現地で交流します。この交流が発展し、外国語を学ぶ目標や醍醐味を再発見することにつながってくると思っています。



◎但馬一憲

日本語と日本への関心をもち続けてほしい

モスクヴィナ・オリガ
ノボシビルスク市立T.T.リツエイ学校教師

私が日本語に出会ったのは大学のときです。その頃、ノボシビルスクで日本語を学べる大学はほとんどなかったのですが、幸運にも私の大学には日本語の授業があったので、第2外国語として日本語を選択しました。日本語がとてもおもしろいと思ったのです。

大学卒業後、日本語を教え始め、今年で21年になります。生徒には、大学で学ぶことや将来の仕事の内容に関係なく、日本語と日本の文化



◎但馬一憲

の授業で、ロシアで若者に人気のある歌やアニメをよく使うようですが、その内容にも興味がありました。

日本語と日本の文化にずっと興味をもち続けてほしいと思います。この思いは21年間ずっと変わりません。ですから、私は生徒たちが日本語や日本の文化に関心をもつような授業をしたいと思っています。授業の半分は、日本の歴史や習慣、文化などについて話をします。生徒は自分がおもしろいと思っ

ていることをみんなの前で発表します。そのとき1年生はロシア語ですが、2年生は日本語で挑戦します。学校の外にも積極的に出かけて、日本の絵や映画などを観に行ったりします。毎年学校で行う「東洋文化日」に友だちといっしょに多くの卒業生が来てくれることは私の喜びです。昨年、日露合同教師研修に参加して、ロシア語を教えている先生方と初めて交流しました。先生方とは、どんな宿題だと生徒が興味をもつか、どのように宿題を出すといいかなど、すぐに話がはずみました。ロシア語

ロシア語教育を実施している高校

都道府県	学校名
北海道	北海道札幌丘珠高等学校
北海道	北海道札幌国際情報高等学校
北海道	北海道石狩翔陽高等学校
北海道	北海道有朋高等学校
北海道	北海道余市紅志高等学校
北海道	北海道旭川南高等学校
北海道	北海道根室高等学校
北海道	北海道根室西高等学校
北海道	私立札幌新陽高校
北海道	札幌市立札幌大通高校
東京都	東京都立北園高等学校
東京都	私立関東国際高等学校
東京都	私立早稲田大学高等学院
東京都	私立創価高等学校
埼玉県	私立早稲田本庄高等学校
埼玉県	私立慶應義塾志木高等学校
埼玉県	私立立教新座高等学校
神奈川県	神奈川県立秦野総合高等学校
茨城県	茨城県立笠崎高等学校
青森県	青森県立青森南高等学校
秋田県	秋田県立能代松陽高等学校
秋田県	秋田県立角館高等学校
山形県	山形県立鶴岡中央高等学校
山形県	山形県立酒田光陵高等学校
新潟県	新潟県立小千谷西高等学校
新潟県	新潟県立三条商業高等学校
新潟県	新潟市立明鏡高等学校
富山県	富山高専専門学校
富山県	富山県立伏木高等学校
富山県	富山県立志貴野高等学校

(林田氏及びTJF調べ。2016年3月現在)

ロシア語教育のいま

大阪大学教授 林田理恵

近年、「グローバル人材の育成」が課題となっているが、外国語教育は英語に収斂されつつあり、複言語には向かっていない。大学でのロシア語教育も少く、大学につながる教育として重要な高校のロシア語教育の現状を調査した。

ロシア語教育実施校は、ロシアと交流が深いか、ロシア系住民が比較的多い北海道、秋田、新潟、富山などに集中している。歴史的な対露イメージやロシア語そのものに対するイメージから学習者が増えないことは想像に難くないが、理由はもっと本質的なところにある。

まず第一に、人員配置がうまくいっていないことである。ロシア語担当教員が異動、退職したときに後任が見つからず閉講に追い込まれるケースがある。一方で、ロシア語の免許をもちながら活用がない教員がいる。次に、授業時間が少ないために、明確な学習目標を設けられない。そうすると教材や指導方法も決まらないため、十分な学習成果が得られなくなる。さらに、高校生に適したロシア語教材も未整備である。

中等教育の外国語教育で大事なことは、多文化・多言語社会に向けて垣根を取り払い、共生社会を築いていこうとする意欲を育てることであろう。そのためにも、上記の課題解決に向けて、高大間の知恵と経験の交流・連携が求められる。

【事業データ】
互いのことばの教育に取り組む日露の教師交流プログラム(招聘)
期間：8/7(金)～12(水)、場所：千葉、東京、主催：日露青年交流センター、TJF、助成：(一社)尚友倶楽部、協力：全ロシア国立外交文獻図書館「国際交流基金」文化事業部、参加者：ロシアの高校日本語教師6名
※8/9(日)～10(月)に日露合同教師研修を林田理恵(大阪大学教授) 科研、横井幸子(大阪大学講師) 科研と共催した。